

2022年

295号

12月21日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部

〒343-0845

埼玉県越谷市南越谷2-13-49

(越労連内)

TEL・FAX 048-989-2472

E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp



公園内のテーブル付きのベンチに6人が掛け、早めの昼食交流会。五十嵐さん、吉田さん、料理、吉田さんの家庭料理。

第64回シテイウォーク 都内の3つの公園は 静かに紅葉していた

11月28日(月)曇り空の南越谷駅南口に、吉田健治、長谷川昌弘、古川正治、足立秀機、五十嵐光範、橋本勇夫さんの男性6人が集合。「今回は男性中心で良かった?」と強がり。

9時05分南越谷駅を出発。南浦和駅で京浜急行線に乗り換え、東十条駅下車。古川さん以外は「初めて降りた駅」とキョロキョロ。

古川さんは60年前、若い時2年間生活した街。60年前の記憶はなくて、それほど街並みは変わっていた。

名主の滝公園へ。滝の水は枯れていた。10時の時報が鳴ると滝の水が流れてきた(写真参照)。水はポンプで汲み上げて流していたとしても6人は満足して拍手。途中王子駅近くで酒マン、アツアツを食べた。古川、足立、長谷川さんはお土産を購入。飛鳥山公園では園内を一周し、紅葉を楽しんだ。記念館や施設は休館で支出がゼロで良かった?公園内のテーブル付きのベンチに6人が掛け、早めの昼食交流会。五十嵐さん、吉田さん、料理、吉田さんの家庭料理。



理、足立さんのデザート、橋本さんの茹でた「むかご」が加わり会話の人数は長時間続いた。ここでも男性中心の会話は時間を忘れさせた。風もなくウォーキング日和のものと旧古川庭園。高齢者は70円で入園。私以外は旧古河庭園は初めて訪れたとの事。秋のバラ園は手入れが良く綺麗。庭園の樹木の紅葉に心を奪われた。庭内を一周し都内の静かさを堪能した。帰路は茶店も休業や廃業で苦労さん会は中止。上中里駅から全員が座って帰宅。風もなく1万歩のウォーキング終了。(吉田健治)

越谷社保協 総会と 講演「補聴器を効果的に 使用するには」

11月27日(日)13時、越谷社会保障推進協議会第14回総会が、宮下文子(年金者組合

会計監査)議長のもとで進行しました。斎藤裕会長が挨拶と活動報告、方針(案)を報告。佐伯会計が会計報告、予算(案)を報告。

質疑討議では、吉田支部長が年金者組合の活動報告と補聴器購入助成制度の創立の署名の協力と今後の運動について報告し、3月の議会に要請し実現を目指します、そして民主団体、社保協、市議団と協力し、運動を強化します、と報告しました。

(吉田、広瀬、宮下、大滝、五十嵐、不破、千葉、飛山ますみ、西尾、森が参加)

総会終了後、柴田治氏(認定補聴器技能者)が講演「補聴器を効果的に使用するには」を行い2時間の熱弁で実例を示しながら説明してくれました。

補聴器は「耳かけ型、耳あな型、その他」それぞれメリット・デメリットがあり高額なので機器選定時がポイントです。まずは試してみる事(これが宝の持ち腐れをなくします)。補助金の助成は国民の協力と理解が必要です。そして運動の強化と議員の協力が大事です。

補聴器は世界中で使われていますが、日本では60万個から前進していません。署名と宣伝、運動を広げ世論を動かすことが行政を動かします。質問は多種多様で20分間で10名が生活実態をふまえて質問しました。柴田さんは最後まで丁寧な説明してくれました。(吉田健治)

点 晴

発電エネルギーは国産化 し、地球温暖化対策を

2022年も後わずかですが、世界では新型コロナウイルス感染症、ロシアによるウクライナ侵略戦争、大干ばつ、冠水被害、山火事、火山噴火等々いろんな事象が起こりました。国連気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)が開催され、先進国が当初難色を示した「地球温暖化により損失と被害に対する補償に繋がる基金」の設立に初めて合意をしました。

残念ながら今年も日本は、「化石賞」という不名誉な賞を受賞しました。

岸田政権はCO2削減のためとして、原発の再稼働・新設方針を突然打ち出しました。

福島原発の廃炉作業、放射性廃棄物の処理に対し、10年以上経っても未だに処理方針が確立しない中、国民的合意を得て進めるのでは無く、エネルギー危機だからと、安易に原発に頼る場当たりの政策しか打ち出せない政府では、地球温暖化対策などまともな政策は打ち出せません。

世界のどこかで戦争が始まると、エネルギー等を全面的輸入に頼る今の日本は、輸入に頼る時代を終わりにし、自国による自給自足のエネルギー政策を進めないと日本の将来に希望が持てません。

今、エネルギー・食糧等の輸入で中国に買い負けをしてしまい、思うような輸入ができない状況です。

日本では原発に頼るのでは無く、エネルギーで世界第3位の地熱があり、地熱発電・小水力発電・太陽光発電・風力発電等を全国至る所に設置することで、大規模発電所が止まりブラックアウトになる心配も無くなります。

今こそ地場産業を活性化し日本全体を元気にし、化石燃料から脱却するエネルギー政策に大転換をする時ではないでしょうか。(和田幸雄)

「年金は下げられ」「物価は高騰」「コロナは高止まり」の中、日夜の奮闘ごろうさまです

「ねんきん越谷」一年間購読有難うございました 年金者組合越谷支部：執行委員会／編集委員会